

11月27日（月）、5年2組で社会科の努力点公開授業が行われました。

単元は、「自動車を作る工業」です。グループで考えた新型自動車のよさが伝わるように、話し方や見せ方を工夫しながら発表できるようにすることが目標です。

初めに、教師が鉛筆と消しゴムを手で持っている写真を提示しました。次に、筆箱の写真を提示しました。教師が、「筆箱はどうしてできたのでしょうか」と問い掛けると、児童は、「整理できる」「たくさん入れられる」など、筆箱のよさを発表しました。「このように製品を作る人は、使う人のことを考えて機能を考えています」と、今回の学習内容である自動車開発のプレゼンにつなげました。「どのようにすれば、相手に伝わりますか」と投げ掛けると、児童からは、「相手の目を見る」や、「資料を指で指し示す」という答えが返ってきました。



【学習内容を確認する教師】

次に、グループに分かれて、プレゼンの最終打ち合わせを行いました。新型自動車のアピールポイントを示す「合言葉」や、考えた五つの機能の確認と、簡単な練習を行いました。プレゼンで使う話型プリントは、四つのレベルに分かれていて、児童は自分に合ったプリントを選びました。中には、キーワードを書いた付箋をプリントに貼り、プレゼンの練習を行う児童もいました。



【最終打ち合わせをする児童】

いよいよプレゼンです。三つのブースをつくり、それぞれの児童がグループの代表として各ブースに分かれ、グループで考えた新型自動車のよさを紹介します。話し手は、聞き手の様子を見つつ、資料を効果的に提示して、よさをアピールしました。聞き手は、「安全」「環境」「人にやさしい」「便利」を基に、点数を付け、採用かどうかを判断しました。途中で教師が、「資料は補助的なものです。聞く人は話す人を見て、説明をしっかり聞きましょう」と伝えました。



【プレゼンの様子】

社会科の児童が開発の学習で、自動車が人々の願いや社会の動きを考えて開発されていることを学びました。その学びを基に、児童は、自動車会社の社員になりきって、どんな自動車が望まれているのかを考えました。さらに、プレゼンという形で発表させることで、「話し方」や「聞き方」を意識させることができました。「話すこと・聞くこと」の力を伸ばすためには、こういった場面設定も有効な手立てだということが分かりました。



【評価をする児童】